

農林水産大臣
林 芳正 様
国土交通大臣
太田 昭宏 様

「次世代林業システム・平成 26 年度重点政策提言」
～ 次世代林業システムの実現に向けて ～

平成 26 年 6 月 9 日

(一社) 日本プロジェクト産業協議会
森林再生事業化委員会

「次世代林業システム・平成 26 年度重点政策提言」

～次世代林業システムの実現に向けて～

(一社)日本プロジェクト産業協議会

会長 三村 明夫

森林再生事業化委員会

委員長 米田 雅子

日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)は、日本創生委員会とともに、昨年 12 月に「林業復活・森林再生を推進する国民会議」を開催いたしました。また、JAPIC /森林再生事業化委員会は、産業界の力を結集し、「次世代林業システム」の実現に向けた諸活動を精力的に実施してきました。

この度、平成 26 年度の重点政策として、上記提言の実現に向けて、次の 4 項目を提言いたします。

1 次世代林業モデルの具体化

- ① 地域モデルの位置づけ・全体イメージ
- ② 地域モデルのマスタープランづくり

2 デジタル地図情報の整備と異種の道ネットワークの推進

- ① 全国土デジタル地図情報の整備
- ② 異種の道ネットワークの推進

3 木材供給の安定化

- ① 産官学現場による林業機械の効率利用体制の構築
- ② ラミナ等の需要の拡大に対応した製造ラインの変更
- ③ バイオマス発電適正配置の推進

4 国産材利用の拡大

- ① 東京五輪で建築技術の粋を集めた木造建築の実現
- ② 中大規模木造建築物の普及に向けた施策
- ③ 土木・建築工事における木材利用の推進(防災と環境保全の両立)
- ④ 国産材を活用した合板の用途拡大
- ⑤ 国産材マークの普及

森林資源を活かし、我が国の林業のため、農林水産省、国土交通省、経済産業省等関係省庁、地方、民間企業が連携し、本提言が実行されることを強く期待申し上げる次第であります。

以上

1 次世代林業モデルの具体化

①地域モデルの位置づけ・全体イメージ

【日本林業の課題】

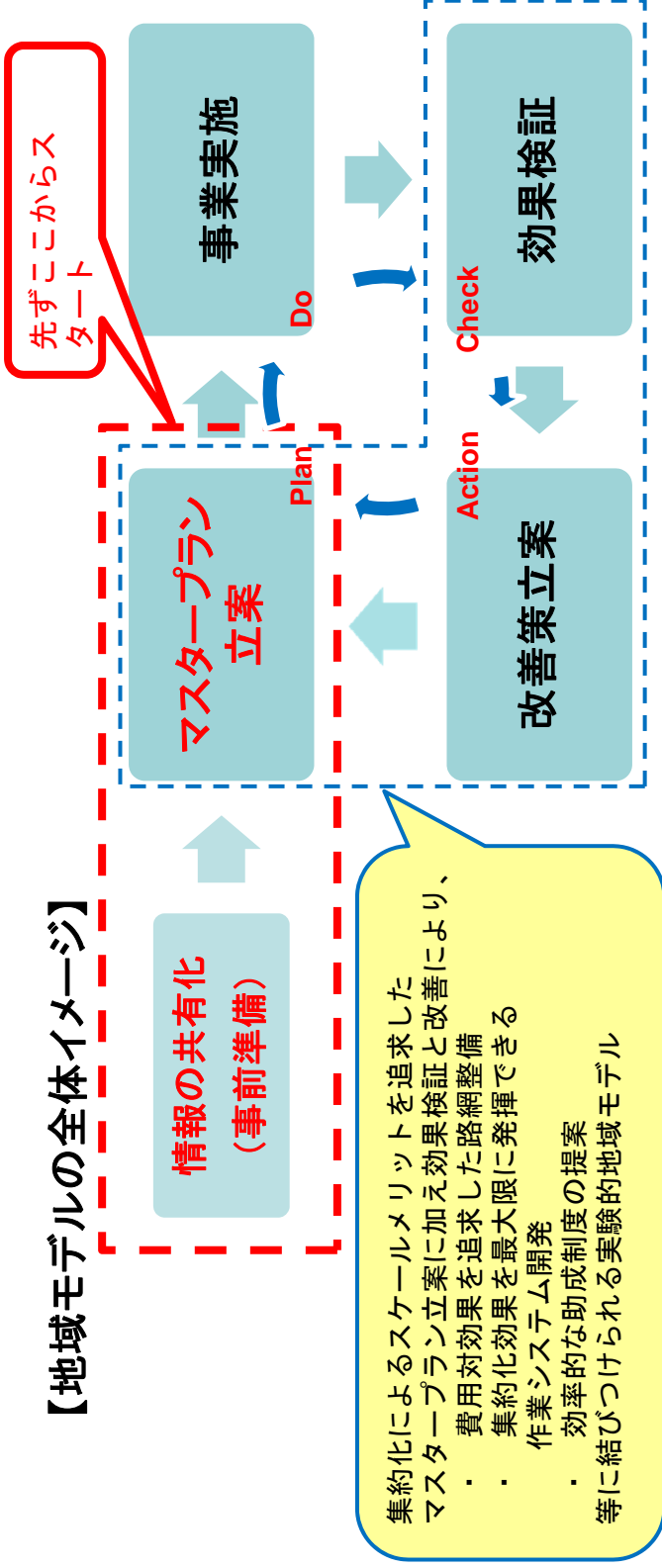
- ・ 路網整備が遅れ、搬出コストが嵩む
- ・ 所有が小規模で施業効率が悪い
- ・ 木材供給が不安定で市場評価は？

【集約化の課題】

- ・ 小規模所有が多いため、集約化には多大な労力が必要
- ・ 集約化の費用対効果が不透明



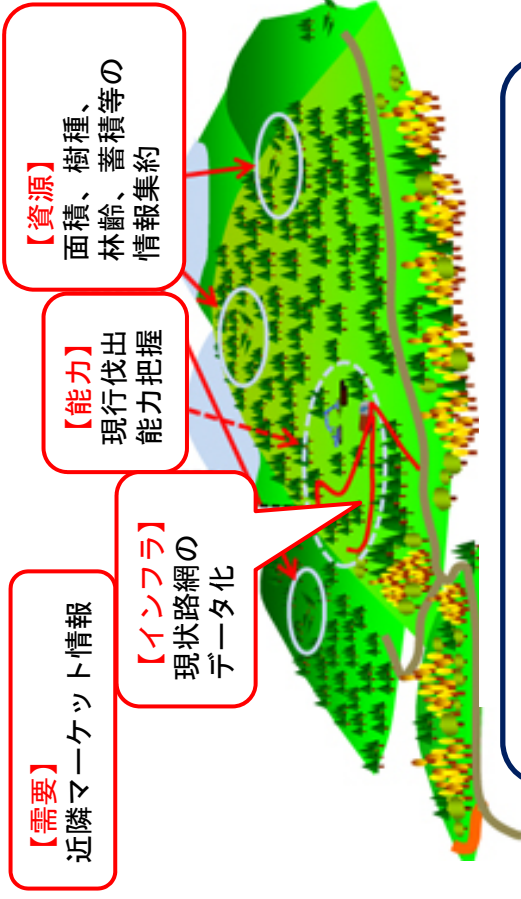
そこで、JAPIC森林再生事業化委員会が目指す『次世代林業システム』を具体化させるべく、大規模社有林、森林組合、林業経営者、国・公有林等が連携し、林地の集約化によるスケールメリットを評価（効果検証）するため、『地域モデル』を構築し検証することが必要。このため、民国連携に積極的に取り組んでいる九州地区に『地域モデル』を設定。



1 次世代林業の具体化・実現

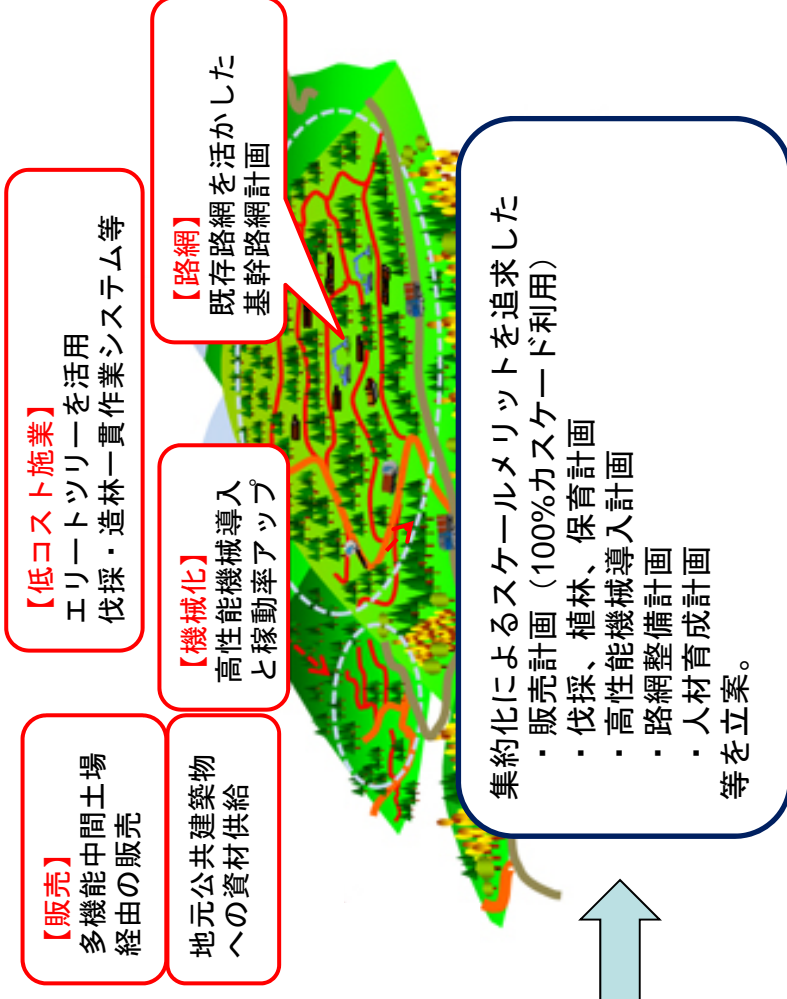
②地域モデルのマスタープランづくり

情報の共有化（事前準備）



大規模社有林、国・公有林をベースに、集約化によるスケールメリットが期待できるエリアを森林共同施業団地化。そのエリア内の林況、路網など基本情報を共有化（GISデータ、データベース化）。

マスタープランづくり



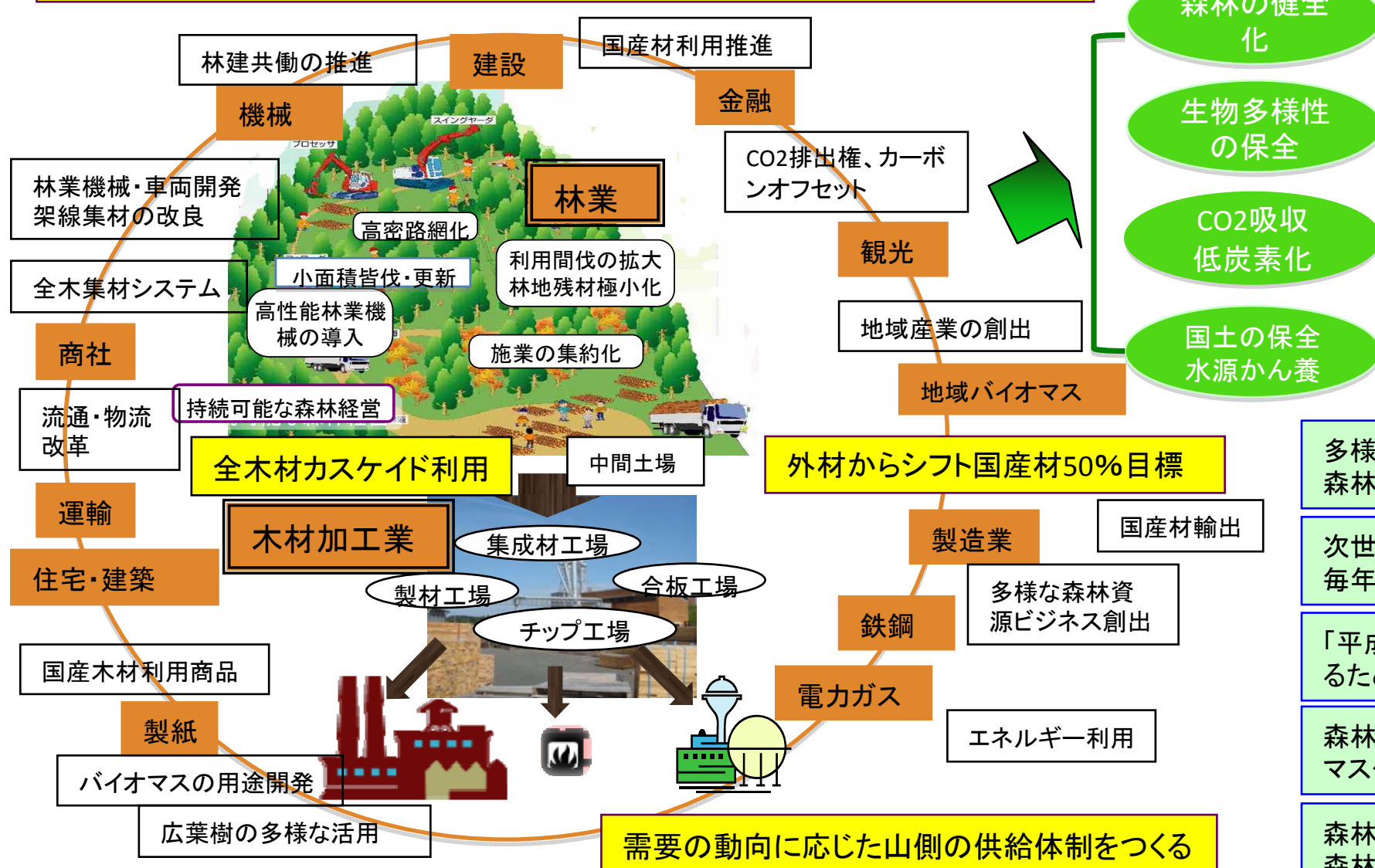
集約化によるスケールメリットを追求した
 ・販売計画（100%カスケード利用）
 ・伐採、植林、保育計画
 ・高性能機械導入計画
 ・路網整備計画
 ・人材育成計画
 等を立案。

- ✓ 集約化によるスケールメリットの追求には、民国連携「森林共同施業団地」を拡大発展
- ✓ マスタープラン立案には幅広い林業知識が必要なため、国有林職員の豊富な知見を活用
- ✓ 実験的『地域モデル』事業につき、公的助成によるサポートが必要

『地域モデル』の構築には、国有林に中心的な役割を期待

次世代林業システムを目指す取組み(概要)

広範囲な企業力を結集し、循環型ビジネスで森林再生・環境再生を実現しよう



- 森林の健全化
- 生物多様性の保全
- CO2吸収 低炭素化
- 国土の保全 水源かん養

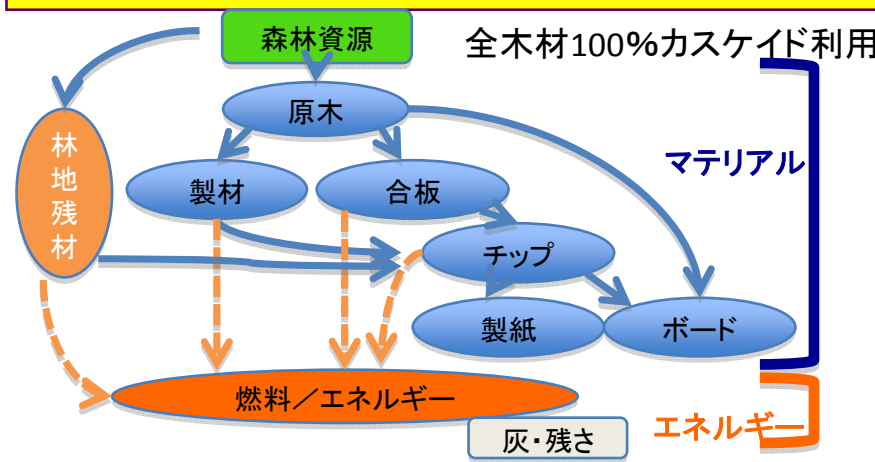
シームレスな広域の森林整備



- ・国・公・私有林の区別を越える
- ・省庁の縦割りを越える
- ・自治体の境界を越える
- ・広葉樹、針葉樹の区分を越える
- ・一部の不在不明所有者を越える

- 多様な森林整備と循環型利用を森林全体(針葉樹・広葉樹の区分なく)に展開しよう
- 次世代を担う新しい資源の造成 毎年一定面積の皆伐・造林を実行
- 「平成検地」で境界確定を加速し、森林状況を把握するために、全国土デジタル情報基盤を整備しよう
- 森林整備、国土保全、生物多様性保全のために広域マスタープランを作り、基幹的な作業道を整備しよう
- 森林資源を活かし農商工連携で産業・観光振興しよう 森林バイオマス利用の野菜工場・製造業等

森林資源のマテリアルとエネルギーのバランスを取ろう



モデル地域づくり

第1歩として、大規模社有林、森林組合、林業経営者、国有林等が連携し、2000haクラスの団地化を進める。
森林再生を目指す実効性のある仕組みを試行する。

次世代林業推進のための省庁連携のしくみをつくろう

